



2025年3月7日

かながわけんなんしふ

建交労神奈川県南支部

2025年春闘No.10

2024年度推進ニュース⑱通算369号

発行責任者 小島 茂

国民春闘に結集-建交労3.6中央行動！ 大幅賃上げ・組織拡大・政治改革の実現を

3月6日（木）、建交労は国民春闘共闘・全労連をはじめ5団体主催の中央総行動に結集し3.6中央行動を展開しました。10：00から衆議院第一議員会館大会議室で開催した建交労2025年春闘総決起集会には全国から130名の仲間が結集し、神奈川県本部からは神奈川県南支部（委員長）の小島が参加しました。

足立浩委員長（右写真の中央）は総決起集会冒頭のあいさつで「25春闘が本番を迎え、情勢は大幅賃上げが充分可能な状況となっているが今までと同じような展開をすれば、今までと同じような結果しか見えてこない。情勢・状況がちがうのであればたたかい方もちがってくる。労働組合の組織率は16.1%で圧倒的に未組織労働者が多い。こうしたなかで職場だけでたたかっているのは中小企業の多い建交労では厳しい春闘にならざるを得ない。すべての職場であらゆる行動を展開し仲間の力を結集して25春闘を粘り強くたたかいぬきましょう。」と訴えました。

来賓の全労連・秋山正臣義長（右2段目写真の中央）は「労働組合の力の源は何といっても組合員の数です。職場で多数を組織すれば要求実現の可能性は高まります。なんとしても組織拡大をはかって行くことが必要です。だれもが安心して働けることが出来る職場を目指し労働組合に結集して要求を前進させましょう」と呼びかけました。



報告及び行動提起をする廣瀬書記長

交労2025年春闘中央決起集会

全日本建設交通一般労働組合 2025年3月6日



全闘争を展開しよう 各地でともに闘う仲間を増やそう

2025年春闘中央決起集会

全日本建設交通一般労働組合 2025年3月6日 建交労中央行動



全闘争を展開しよう 各地でともに闘う仲間を増やそう

2025年春闘中央決起集会

全日本建設交通一般労働組合 2025年3月6日 建交労中央行動



日本共産党の堀川あきこ衆院議員（上写真の右側）は「私たち日本共産党はみなさんの声を大きな力にしてみなさんの暮らしのために、そして賃金引き上げのために努力していきたい」と力強く決意を述べました。

その後、たたかいの経過と行動提起を行った廣瀬肇書記長は今年度のこれまでの組織拡大到達点「組織内拡大302人、新結成2組織4人」に触れて組織拡大運動の徹底強化を呼びかけました。

建交労2025年春闘

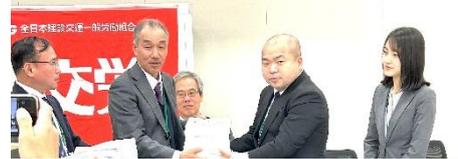
全日本建設交通一般労働組合 2025



全日本建設交通一般労働組合



組合 2025年3月6日 建交労中央行動



厚労省に請願署名を提出する足立委員長



建交労総決起集会での団結ガンバロー

続いて総決起決起集会は業種部会・県本部代表4名が決意表明を行いました。学童保育部会の立嶋峰文部会長(左の写真)は「学童保育の必要性は年々高まっているが国の補助金は減額されている。補助金を活用しない自治体が多く予算が余っているという。このために学童保育の施策に自治体間格差が広がっており、現状を打開するたたかいを強化する」と決意を表明しました。

トラック部会は東徹司幹事(上から2番目の写真)が「昨年4月から『働き方改革』の一環で残業時間の上限規制が設けられ、収入を残業に依存しているドライバーは収入減で生活は厳しくなる。労使ともにトラック産業を魅力ある産業に転換して行けるよう今後も政府・各関係省庁に訴えていきます」と決意を込めて発言しました。

愛知県本部からは谷藤賢治書記長(上から3番目の写真)が「これまで1人だった分会が8人分会になり2人から10人になった分会もある、地道にたたかう組合に結集してきている雰囲気を感じている。この状況を大きく広げていきたい」と決意を語りました。

福岡県本部の緒方秀樹委員長(上から4番目の写真)は「春闘前段闘争で春闘アンケートと中央行動の厚労省宛署名の集約目標を決めて取り組みを強化し、目標を達成することができた」と、この間の成果を報告しました。

その後、厚労大臣宛の個人請願書を厚労省担当官に提出し、川路副委員長の団結ガンバローで閉会しました。

午後からは日比谷野音に3000人が結集した全労連・春闘共闘の総決起集会に参加、その後トラック部会はトラック運転者の状態改善を求める国交省・厚労省交渉と国会議員要請行動を行いました(小島は国会議員要請)。

※本号ニュースの記事と写真は小島委員長でした。



日比谷野外音楽堂で開催された国民春闘勝利！3.6中央総決起集会